



山口県岩国市 S様邸



専務取締役
植月 守氏

EXコーディネーター
松永 信彦氏



約230坪の広い敷地の右手奥に住宅が建っている。前面のアプローチと庭が一体化した大空間はお子さんの遊び場を兼ねているため、安全性に配慮してクローズスタイルに。数カ所に植栽スペースを設けて変化をつけている。

開放感あふれる大きな空間を“使うための庭”に

この施工例は、第18回エクステリア施工コンテストのプレゼンテーション部門で最優秀賞を受賞しました。約230坪の広い敷地を存分に生かし、駐車場、フロントヤード、アプローチ、庭の4つの要素で構成させたエクステリア空間をつくっています。

施主様のご要望は、「子どもが自由に遊んだり、バーベキューを楽しんだり、さまざまに活用できる庭にしたい」ということでした。そこで、“使うための庭”を設計のコンセプトとして、さまざまな工夫を凝らしました。

まず、車の往來の激しい県道に面しているため、お子様が庭で遊ぶときの安全性を考えてクローズスタイルの庭を選択。ただし、美観への配慮から、門まわりをセットバックさせてフロントヤードを設け、

エクモアの開き戸付き引戸門扉を取り付けました。フロントヤードにはアールをつけたレンガの花壇をつくり、一部にジュラストーンも敷き詰め、クローズタイプでもおしゃれて柔らかな雰囲気を出しました。

そして、アプローチと庭を一体化させて開放感あふれる大きな空間をつくりました。たっぷりと奥行のあるアプローチは土間コンクリート仕上げですが、枕木とリュウノヒゲを植えた目地を斜めに配し、その右脇には施主様が所有していた赤レンガを敷き詰めて、表情豊かなデザインに仕上げました。

また、アプローチの左側につくった芝生の庭には、ワンポイントとしてフィリのケヤキを植え、バーベキューやライトアップを楽しめるよう、外部コンセント

を取り付けた枕木とガーデンライトも設置。さらに、空間の数カ所にラティスフェンスやガーデニングスペースを設け、視覚的にも変化をつけています。これらの工夫によって、さまざまな楽しみ方ができる多目的なくつろぎ空間を実現させました。

—— 営業の考え方 ——

施主様のニーズに応えるだけでなく、家族構成や年齢、ライフスタイルなどに応じて、数年先のことも考慮した生活提案型のプレゼンテーションに力を入れています。また、施主様参加型のエクステリアづくりにも留意し、きめ細かな打ち合わせを行ったり、植木やレンガなどを一緒に見て決定してもらったり、施主様が手作りできる部分を設けるなどの工夫をしています。